

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201744		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ ユニット1		
所在	〒857-0028 長崎県佐世保市八幡町1-2		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-8790 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【ユニット1】回近隣に同法人の老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービス、保育園があり、必要に応じて協力し合い、情報交換をおこなえる。又、その方の状況に応じて利用の選択ができやすい体制である。他機関の研修講習やグループホーム内での勉強会も積極的にを行い職員一人一人に応じた、向上を目指し、より良い認知症ケアサービスを心掛けている
 【ユニット2】栄養のバランスをとりながら、1週間分の献立を立てね冷凍食品は極力使わないようにし、好みのもの、希望を聞きながら調理に取り入れ、手作り料理を提供している。
 【ユニット3】認知度が進まれて尿意の訴えのないご利用者も排泄パターンを把握し、トイレでの排泄で失敗、失禁を最小限にできている。・嚥下困難な利用者にも量や形態、食時介助又、買い物、受診、外出などその方のペースに合わせ、その方がその人らしく暮らしやすいケアを支援している。

グループホームの先駆的存在で、モデル事業所として多くの事業所の立ち上げに貢献されており、継続した取り組みでリーダー研修や実践者研修等の受け入れをされている。一方、在宅者に対しては高齢者支援センターの広報活動など、両面性の幅広い取り組みもされている。また、職員の殆どが法人内グループの事業所で介護・看護の経験を積んだベテランぞろいで【安心、安定、ゆとり】のサービスの提供につなげられるなど、ゆとりある穏やかな時間の提供は入居者は勿論職員の平穏につながり浸透しているが、時折、職員の気の緩み、業務がマンネリ化傾向であるのも事実である。新任の受け入れは法人内グループで経験を積んだ後、職員異動で配置されており、業務に新しい風が吹き込まれない空気の入替えができていないのも、その一因である可能性の高さは否めない。職員に地域密着型認知症対応の事業所としての意識と理解は確認できるが、職員の「思い違い」、「独断」、「慣れ」等に警鐘を鳴らし、共同生活を通じた入居者の黒子として、更に質の高いサービスの提供に繋がる業務の振り返りが望まれる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者お一人、お一人、がこうあって欲しいという願いを込めて、明るく、強く、正しく、を提示し、唱和することで日々念頭において介護に取り組んでいる。又ユニットの理念として「利用者様と御家族の思いを生かす」を掲げている	法人理念の「明るく、強く、正しく」のもと、グループホーム理念の「あったか家族」を目指して、ユニット毎にそれぞれの思いを反映した独自の理念を掲げ、「観察」「傾聴」「心の声」「スキンシップ」「家族」「リラックス」等をキーワードに理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のコンビニへの買い物をする事で、顔なじみの関係となっている。また地域の小学校や中学校のボランティアの受け入れをすることで交流している。	近隣の住民構成が新興住宅街と法人グループ施設関係が大半を占めていることもあり、法人内の交流が主流になっていることは否めないが、日々悩みながら新興住宅街の若い世代との接点を「子供と動物」に見つけられ、ホームで飼っている犬と共に挨拶や触れ合い交流につなげられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小中学校や保育園の生徒さん、園児さんとの交流を行っている。又、季節の行事に、地域の方を招く等している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、市町村担当者や民生委員など地域の方を交えて行っている	運営推進会議もコンスタントに開催されていたが、現在、「議題に乏しさ」を感じられている。	運営推進会議の中で、高齢化社会に向けた取り組みとして事業所事例等を通して参加メンバーと共に考え、事業所運営や地域社会へ還元できる会議運営に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	リーダー研修、認知症介護実践者研修への参加、受け入れを行っている。介護相談員の受け入れや、市主催の研修会等に参加をしている	佐世保市のモデル事業所としての役割を現在も維持し続けられており、事業所を研修の場として提供されたり、高齢者支援センターの情報を提供するなど、積極的な働きかけで市との連携につなげられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に昼間は鍵をかけることはない、又入り口にはセンサーを取り付け安全、生活できるように支援している	月に1回、ホーム内で【リスクマネジメント・拘束委員会】を開催されており、事例検討や職員研修に反映した取り組みは、業観の振り返りや身体拘束の具体的な行為の確認を通して身体拘束をしないケアの実践につなげられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き学んでいる。常に見守りを行い入居者の身体や様子の变化に気をつけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する等して、制度の理解を深めている。又必要な方には活用できるように支援をおこなっている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、入居者にキーパーソンと職員が契約書を声を出して読み合わせをおこなっている。又変更等は報告を行い不明点疑問は、気軽に尋ねていただけような体制をとっている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活、コミュニケーションの中で、利用者や家族が自分の意見や不満を言えるように心掛けるとともに、言葉に出せない思いがないかと考えながら接している。また御意見箱を設置している	職員は家族の伝えられない心境を理解されており、家族の言動から読み取れる真意を、少しでも汲み取り運営に活かせるよう努められている。	更なるステップアップとして、本人・家族の意向や満足度を把握することのみに終わらず、分析・検討して具体的な改善策や改善結果の報告まで取り組みされることが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤続年数や立場に関わらずすべての職員が自分の意見や提案を出せるように日々のコミュニケーションを心掛けている。又スタッフ会議やカンファレンスの場を設けている	日常的に職員間で意思の疎通を図られており、勉強会等の場でもBS法の4ルール【質より量】【批判厳禁】【自由奔放】【結合改善】を駆使され、意見が出しやすい環境づくりと意見の聴取を心がけられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の状況、性格、能力に応じやりがいを持って働けるような、職場環境の調整や整備をおこなっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や実践者研修をはじめ様々な研修にすべてのスタッフが積極的に参加できる体制をとっている。又、月1回の施設内勉強会をおこない、職員一人一人の向上を目指している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同職種やその他様々な専門職種と連携をとり、互いの専門性を尊重し合い、より質の高いサービスを提供できるよう協働している。市内にGH連絡協議会を創り防災訓練等の勉強会を企画したり、職員同士が交流できる場面を設定したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>慣れない環境の中での利用者の心情に寄り添い親身になって、日常生活を安全に安心して過ごせるよう、信頼関係を築き、要望等話に耳を傾けながら接している</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>自分の家族を施設へ預けるといふ家族の立場に立って話を聴き、不安や要望等に耳を傾けながら信頼関係を築くよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族との話し合いで、必要としているサービスを見極め老人保健施設、特養と連携しその方に必要なサービスが提供できる様努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一日一日の表情や行動をこまやかに観察し楽しんでるときは一緒に笑い、落ち込んでいる時は寄り添い利用者と一緒に過ごす時間を多くすることで色々なことを学び気持ちを共有することでお互いを支えあう関係を築いている</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを深め面会時など充分話をし悩みや不安があるときは一緒に考え本人が安心して生活できるように協力している</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの場所にドライブに行ったり家族対応により、馴染みの美容室などに出かけられるような支援をしている</p>	<p>誕生日以外にも彼岸やお盆、お正月など縁者や場所との継続した関係が保てるように支援されている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>相性の良い人と仲間関係が少しでも観察できると職員が中に入り一緒に話をしたり隣り合わせに席を配置したり馴染み関係を深めていくよう働きかけている。又、孤立になることなく支え合って生活できるよう努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、その後の様子を尋ねるなどして、これまでの関係性を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方の希望、意向を取り入れた生活を提供できるよう努力している。困難な場合は家族の方に意見を聞いたりスタッフ会議で検討している	入居者の認知症の病気の原因を把握した中で、本人の職歴や性格、趣味等を考慮したコミュニケーション等を通して日々の暮らしの意向や希望の把握に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の入居者様、家族の方との会話の中で、今までの生活歴等を把握したり、情報提供書などからも把握するよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に出来ることであっても、嫌がるようであれば無理をさせない。負担にならない程度にいろんなことに取り組めるような環境作りをしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、作成担当者を中心にスタッフとともに、その方個人に合った介護計画を立てている。又、面会等に家族に意向をたずねたり、同法人のケアマネやPT、OT等の意見も取り入れ活かしている	介護サービス経過やモニタリングシートの「経過と今後の課題」欄に職員の気づきを書かれており、日常的な問題点や課題点を含めて職員の気づき等が介護計画に反映されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、と急変などを個別に記録することでスタッフ全員が情報を共有できている。又、それを用いて計画を見直したりしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々に多様化する状況に応じ、出来る限りの個別的な対応、ケアをするように努力している。又、経験を大事に生かした上でそれまで持っていた固定観念を柔軟に変化させられるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月「歌声喫茶」を開催し、地域の方たちに積極的に呼びかけをし、参加を促している。又、幼稚園、小学生、中学生との交流を受け入れ地域ととけこむよう努力している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様の希望される病院に自由に受診していただき、受診困難な場合は御家族様の代理として一緒に同行して受診支援している	在宅時からの引き続きで利用者のかかりつけ医の受診支援をされている。尚、往診時は嘱託医が担当され、現場職員から入居者の状況報告書による情報提供がなされ、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスの時間を多く設けるようスタッフ間で協力して時間を作るよう日々努めている。入居者様の少しの変化など必ず申し送りし、継続的に観察し、看護師にその旨伝えている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御入居者様の症状の悪化などで入院された場合などそこにいたるまでの経過等、病院に伝えより良い医療が受けられるようサポートしている。又、入院中、職員が見舞ったりして入居者様の心の安定を図るよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナルケア」などについて機会あるごとにご家族と定期的に話を持つようにしている。又、法人内の他施設との相互関係の中で入居者様にとってより良い介護が受けられるよう要望を聞きながら調整している	契約時に同意書を頂かれており、重度化した場合は、その都度医師や家族、職員が話し合い、判定会議にかけるなどして本人・家族にとっての最良策の支援につなげられている。また、医療的分野に関しては本人・家族の意向を踏まえて法人内の介護老人保健施設に相談されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	3ユニットあるので看護師を日中必ず1名配置し、緊急対応できるよう整えている。又、「研修」委員を各ユニットに配置しテーマを決め介護職の技術、知識の向上に努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導を頂き、緊急時の避難訓練を実施し、日々職員の研磨に努力している。又、防災管理者の研修も多数参加し、資格を取っている	月1回の消防訓練又は地震を想定した災害訓練も消防署の指導のもと実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	10人10色というかんがえのもとその人らしさをその人時間を大切にするように心掛けている。又、プライドやプライバシーも重んじて声掛け等、気をつけるようにしている	業務や環境のマンネリ化に起因する入居者を目の前にした、入居者不在の何気ない言動は、サービス提供者の姿勢としての配慮に欠けている。	接遇、個人情報の保護の指針、身体拘束の対象となる具体的な行為等を通じた業務の振り返りで、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしたいサービスの提供に期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現できるよう傾聴心を忘れないようにしている。又、まず本人に尋ねるとい、ご本人の意思を尊重し、それにそえるように心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の人と対等の立場で接し、天気の良い日は散歩に行ったり買い物に行く等できる限り御本人の希望に添えるように努力している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面や更衣のときも整髪の声掛けや介助をおこなっている。又、マニキュアを塗ったり化粧をしたりなど日々の中でオシャレ心を忘れないよう働きかけている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特にメニューを事前には決めずに入居者様の食べたいものが臨機応変に作れるようにしている。又、皮むきや配膳、後片付け等無理ない範囲で一緒におこなっている	女性にとって、「台所は女の城」として台所に立つと落ち着き自分を取り戻される入居者には、場所と役割を提供され職員と一緒に家事援助行為を満喫されている。また、職員と入居者が一つの食卓を囲まれる食事風景である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が望む飲み物好みのもを一人一人の状況にあわせて楽しめるように支援している。必要な方には水分量チェックをおこなっている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には自力での口腔ケアを促し、介助が必要な方はスタッフが一人一人に応じた口腔ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個人の排泄間隔にあわせ排泄誘導している。又、失禁をなくトイレで排泄することで自立支援と不快感の軽減に努めている	尿意の訴えない入居者には、排泄パターンを把握した声かけ誘導で排泄の自立支援につなげられている。また、本人や家族の希望で夜間のポータブルトイレの使用を、本人の自立支援に位置づけされている事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトを施設内で発酵させ日々の食事に取り入れたり、寒天や野菜類も積極的に取り入れている。又、日々軽い運動もしてもらい便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴をさせていただいているが汚染時や希望があった時には入浴日以外でも対応する体制をとっている。又、入浴を楽しんでもいただけるように入浴剤を使用したり、会話や声掛けをしながらと心掛けている。	入居者間の友好関係を反映した取り組みを入浴支援にも活かされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間にこだわらず、その方その方のライフスタイルに合わせた就寝時間に対応している。寝具室温、灯り等もその方の体調や好みに合わせるよう配慮し必要な方は、午睡をしてもらうようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ナースが利用者一人一人の薬の説明書を作成している。又、服薬チェック表にて誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や能力、生活歴に応じて、リーダーシップをとってもらったり、手作業や食事の準備や片付け、選択等をしていただいている。又、パンが好きな方には個別に提供したり、タバコやアルコールの嗜好品も楽しんでもらっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的な外出はもちろんその時の希望や天候によつて、近くへの買い物や散歩、ドライブなどの支援をするように努めている。又、昔馴染みの店等にも家族の協力を得ながら、対応するようにしている	外出のタイミングが合わないときもあるが、なるべく本人の意欲を大事にして支援されており、本人の能力に応じた対応で近くの店への買い物から外気に触れるだけの支援まで広義の対応をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの方が、現金は施設管理ではあるが、管理能力のある方には、家族同意のもと、おこずかい程度の現金を所持していただいている。自販機やコンビニでの買い物ができるだけ自由にできるように支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったりその他必要に応じて家族や知り合いに直接電話をかけていただいている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物を生けたり、ご本人が使われていた食器やクッション、座布団などを用い、安心できる空間作りを心掛けている。又、音楽やラジオなどで楽しく、心地よく過ごしてもらえるようにしている	共用空間の中に入居者が余暇を自由に過ごせるよう、本棚や折り紙など手の届くところに設置されている。また、極端な温度差や換気などへの配慮もされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人のソファなどその時に応じ、希望の場所に設置する等しており、自分の居場所を確保できるように支援している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具や家具を使用したりその方に応じ、TVや冷蔵庫、ソファなど置いて自分の空間を作りだせるように心掛けている	布団に入らないで椅子でゆっくり寛がれたり、居室へのコーヒーやお茶の出前サービスを提供されたり、入居者が居室で寛がれる時間も大切にされた支援で居心地のよい居室空間づくりにつなげられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にその方らしい手作りの表札をかけている。又、他人に聞きづらいトイレは大きく明記し、一目でわかるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201744		
法人名	社会福祉法人幼老育成会		
事業所名	グループホーム サクラ ユニット2		
所在地	佐世保市八幡町1-2		
自己評価作成日	平成21年11月5日	評価結果市町村受理日	平成22年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階
訪問調査日	平成21年11月24日

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「明るく、強く、正しく」、グループホーム全体の理念「あったか家族」、ユニット2の理念「理解し合おうあなたの心、私の心、みんな大切」を掲げ、共有、実践に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、年4回の小学校との交流を行なっている。又、その他の行事についても、ポスターやチラシにより参加を呼びかけ、交流を大切にしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は常に地域の方々の見学、悩みや困りごとの相談を受け入れ、介護方法や認知症の理解をしていただけるよう努力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退所、介護度状況、行事、サービスの状況など報告し、意見交換も行ない、サービスの向上に反映させている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者にも参加頂いたり、市主催の研修会にも参加するなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設けており、勉強会など行い、職員全員が拘束を行なわない意識を持ち、日々努力している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修、又外部研修に参加するなど常に意識を持って業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会の機会には参加し、理解を深め、活用に繋げていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は本人、ご家族と共に契約書、重要自事項について読み合わせを行い、十分な理解と納得をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又、電話にて受けた意見、意向については、スタッフ全員で話し合い、共有、又、運営推進会議等で報告し、意見なども伺い、運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は毎年、職員との面接や、その他の機会を設け、意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、昇給、資格取得などへの評価、又、新年会や暑気払いなど、職員が働く意欲を高められるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に合わせ、施設内、施設外の研修に参加、又、日頃の業務の中で、知識、ケア技術の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学の受け入れ、施設訪問などを通しての交流、連絡協議会主催の研修や交流会にも参加し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	御本人、御家族とゆっくりと話し合い、希望、要望を受け止め、安心していただけるよう努力している。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	御家族の意見、相談に耳を傾け、家族として出来る事できない事、不安に思う事を見極め、又、施設側としての意見なども提案し、安心していただけるよう努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	御本人、ご家族が最も必要としていることを見極め、その方に最も合ったサービスの提供ができるように努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	常にグループホームが一つの家族としての意識を持ち、御本人が培われた知識や知恵をいただきながら、支えたり支えられたりの関係を築いている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	電話や面会時、体調、生活状況などの近況報告を行い、面会の要請や一時の自宅訪問など、日常的に協力関係を築いている。		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	昔馴染みの散髪屋さんに行ったり、又美容師に来ていただいたり、馴染みの歯科医の往診など支援している。		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	仲よし同士の関係の見守り又調整、閉じ籠もりがちな方はフロアーへお誘いし、お茶、会話など、他者との交わりのきっかけをつくるなど、楽しく過ごすことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退院後も必要な時、情報を提供するなど関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人一人の表情、会話、又、意思疎通の困難な方には筆談やジェスチャーを交え、意思の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、御本人、ご家族からの聞き取り、又、普段の生活の中での会話、又、馴染みの方の面会時の会話の中からこれまでの生活の様子などを把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の体調、生活のリズムを崩さないよう、出来る事への参加、又休養など、その日の状況の記録をし、職員全員が共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス等を通し、スタッフの意見、又、ご家族の希望、要望等伺い、介護計画に反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の体調、心理状態、生活状況など、個別のカルテに記録、カンファレンスによる意見なども記録し、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々個々の心理状況をふまえ、家に帰りたい時は家まで一緒に行き、墓参りやお寺参りなど、要望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などにより、民生委員の活動や取り組みなどお聞きしたり、意見交換なども行い、利用者の方々が安心して暮らすことが出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な時は、ご家族と相談し受診病院を決めるなど、ご家族、御本人が、安心して希望の病院受診ができるよう支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化や気になる事等、常に看護師との連携を密にし、利用者の状態の把握と適切な判断を行い、安心して受診、又、看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は度々面会に行き、担当医、又、担当看護師より情報を得、状態の把握、又、退院時の御本人やご家族の不安や心配事が解消できるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、又、面会時等に、重度化、又、終末に向けての看取り介護、関係機関との医療の連携や方針などの説明を十分に行い、ご家族、御本人の意向を踏まえ、支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設では定期的に痰の取り方、骨折した時の応急処置、心肺蘇生術などの指導を受けるなど、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、関連施設と連携し、年3回の防火訓練、毎月、自主防火、防災訓練を行っている。又近隣のアパートに職員が入居し、いざという時に地域の協力を得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の会話の中で、人格を傷つけない言葉、丁寧な言葉、尊敬の心を込めた言葉を常に心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方は常に、思い思いに過ごされており、希望、要望等自由に表出し、自己決定できるような雰囲気作り、又、言葉掛けを行うなどの働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活状況を把握し、起床時間、就寝時間などその方に合った生活、又、過ごし方を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など自分で選ぶことの出来る場所に置き、季節に合ったものを選んでいただけるよう、又、選ぶことの難しい方は職員が選び見ていただくなど、お洒落や身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々の好みの物を献立に取り入れられたり、皮むきや盛り付けなどもしていただいたり、皿洗いや皿拭き等、会話を楽しみながら行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食のバランスを考慮し、偏食の方には調理法を変えたり、会話しながら勧めたり、食事量、必要な方は水分摂取のチェックを行うなど、一人一人の状態に合わせ支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、入床前の口腔ケアの促し、又介助によるケアを行っている。又、義歯の方は、週に1度洗浄液により清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を観察し、排泄の促し、排泄チェック表を活用し時間をみて誘導したり、自立した排泄の支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に、ヨーグルト、やとこてん、主食には毎食寒天を入れて炊いている。副食には野菜を多く取り入れ、散歩や運動の働きかけを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の必要な時は入浴日に限らない。又、本人の希望の時間帯に合わせて入浴していただいたり、仲良し同士、一緒に入浴していただくなど、楽しい入浴を支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日中フロアーで過ごして居る方には、短時間の昼寝や休息を促したり、不眠症の方にはお茶を飲みながら会話したり、安心してゆっくり眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方箋を見たり、分からない事は看護師に聞いたり、その時々症状など主治医に報告、指示を仰ぎながら、服薬の支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみを把握し、本の好きな方には図書館より本を借りてきたり、又、生活の中で、出来る事をして頂き、張りのある生活を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望を取り入れ、外出をしたり、ドライブに行ったり、又、ご家族の協力を得ながら、花見、遠足など楽しんでいただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や御本人と話し合い、管理できる方は小額所持し、管理無理な方は施設で預かり、買い物時に手渡しし、自ら選び、支払いできるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された場合、可能な方は事務所の電話口まで、そうでない方は携帯にて、ご家族と直接話していただいている。又、面会の少ない方には、手紙を書きいただけるようお願いしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りには季節の花を植え、フロアーには常に花を飾り、窓を開け戸外の空気や風を肌で感じていたたりしている。又、通路には手摺を設け、トイレ、浴室の表示など、混乱のない生活を支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファを置き、ゆったりくつろげる空間を設けている。又、気の合う者同志、テーブルの配置なども考慮し、会話を楽しみながら、のんびり過ごすことが出来るよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や遺影を持って来られている方は、御茶やご飯のお供えしていただいたり、又、馴染みの鏡台、筆筒、冷蔵庫等も、ご家族、御本人と話し合いの上使いやすいように配置する等の支援をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー通路には手摺を設け、トイレには使用中の札を下げたり、タンス等種類別に表示し、迷いや混乱が起こらないように自立に向け、支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201744		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホーム サクラ ユニット3		
所在地	〒857-0028 長崎県佐世保市八幡町1-2		
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-8790 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階
訪問調査日	平成21年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念「明るく、強く、正しく」をベースにグルホの理念「あったか家族」又、ユニット3のスローガンとして、今年度は「えがお、きずな、支えあい」を掲げ、実践につなげている		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、月1回のほのぼのカフェを開催し、近隣や同系列の施設の方々、ご家族にも声掛けし、参加を呼びかけている。又市民大清掃などの活動にも参加している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊されるご利用者の情報や認知症を理解して頂くチラシなど配り、いざと言う時に支援が得られる体制をとっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で事業所のサービスや行事、取り組みなどを報告、参加者との意見交換等も行いサービス向上に活かしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成委員として参加して頂き、事業所の取り組みなど伝えて関係を築いている。又市の主催での研修に参加してサービスの質の向上に努めている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設け、母体施設老健の拘束委員と定期的な勉強会を実施、全職員が身体拘束について認識し、拘束のないケアを目指し実践している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修を受講する機会があり、又事例を元に勉強会を実施し、事業所内での虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ研修で学ぶ機会があり、必要な人にはそれらを活用できるようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談を通して、契約内容、重要事項の内容を読み合わせ、十分理解して頂き、又、疑問点なども納得して頂いた上、同意を得るようにしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	させば介護相談員の定期的な訪問に余栄、苦情、相談の窓口がある。相談内容についての処理体制、手順も契約書に文章化している。又、施設内で満足度などのアンケート表を置き、要望などを表せる機会をもうけている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が行事、イベントなど発案、企画し、段階を経て主任会議の場で承認される。又、定期的なスタッフ会議も実施している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとにスローガンや各職員目標を掲げ達成できるように努力している。又、勉強会や研修などの受講で段階に応じて資格取得を目指している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が何らかの介護の有資格者であり、段階に応じ資格を目指している。又、法人内外での研修の機会や伝達研修を行い、自己研鑽に努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、ケアマネ連絡協議会での研修会、交流会に参加、又同業施設の運営推進会議への相互参加し情報交換をおこなっている。外部施設の研修生受け入れも行き、互いに知識やスキルアップにつなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や面談を通し、本人が安心して利用していただけるように耳を傾け、関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	親身になって話をする機会を作り、困っている事や不安を解決できるアドバイスや情報提供をすることで信頼関係をつくりあげている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みを受けた時点から本人、家族の希望、状況を見極め、小規模多機能、老健、特養など連携しながら、利用者にあったサービスが提供できるように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、利用者の生活暦など踏まえて、残された機能が発揮できるように、一緒に過ごしながら、互いに支えあう関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とのつながりを深めていけるよう、ご家族も一緒に外出し、暮らしや介護にも家族も関われる機会づくりをしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお彼岸にはお寺にお参りに出かけたり、行きつけの按摩などに出かけ一人ひとりの生活習慣を尊重している		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に傾聴を心がけ、又、皆で楽しく過ごせるような場面づくりや気の合う利用者同士の関係がうまくいくように職員は調整役となって支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた場合には、必要に応じ情報を提供し連携を図っている。又、入院中であっても経過を見守り、本人や家族との関係を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に思いや、要望、意向の把握に努め、言葉や表情等から推し測ったり、確認したりしている又家族からの情報も大切にしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別に生活歴やこれまでの環境、サービスの利用経過など、家族などからの情報を得ながら、本人の全体像をしる努力をしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、できること、わかることを暮らしに取り入れている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや要望を聞き、反映させるようにしている。又、利用者のちょっとした変化やいつもと違うなどの職員の気づきなどを共有しカンファを行いプランにつなげている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを個別に勤務帯ごとに記録している同ファイルにバイタル、食事摂取量、排泄回数なども記録して情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにいかしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠隔からの家族の面会時、利用者さんの居室と一緒に休んで頂けるように、寝具の貸し出しや食事の提供等お声かけなどしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活できるように、運営推進会議などの場で、民生委員や利用者家族代表者などと意見交換する機会を設けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同系列に医療機関があり、2週に1度の往診を受けて、利用者の体調不良時や異変時は適切な医療を受けられるよう支援している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師を配置し、日常の健康管理を行っている。看護師不在時も母体施設と連携し支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に入院先の関係者と情報交換し、グルホでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期の利用者が穏やかに過ごせるよう、グルホで出来る事、ご家族に協力して頂く事など話し合いを重ね支援に取り組む事としている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、応急手当の仕方のマニュアルを作り、周知できるようにしている。又講習を受けた職員が伝達講習を実施している。今年度は応急手当などを全職員が体験できる訓練を予定している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署隊員の指導により通報の仕方、避難訓練、消火器の使い方など定期的に行い、毎月自主訓練もおこなっている。又防火管理者の講習には複数参加し資格をもっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや食事介助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアやことば賭けなどを気をつけている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では十分に意志表示できない場合であっても、表情や反応を察し、自己決定できるように働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたい所への外出(買い物、按摩、イベント、ドライブなど)をし、個別対応に努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行ったり、好みの洋服を選んで着る等その人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けなど出来る範囲で楽し身ながらやって頂いている。又季節の食材で行事食や誕生会など本人の好みなど取り入れている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立にバランスが取れるように、献立表に記録している。摂取量も個々にあわせて確認するようにし、本人の好きなものや食べやすい形態にも配慮している。時々本体施設の栄養士に献立を見せるなどして助言をもらっている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声賭けをして見守り、出来ない方に関してはその方に合わせブラッシングや義歯の方は毎食後外し、お茶や白湯でケアし、口腔内を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を配慮し、利用者の身体機能に応じて声掛けしたり、尿意の訴えのない利用者にも排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切にしている。パット類も本人に合わせ検討しながら使用している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録して利用者の状況に合わせて日頃の献立に乳製品や糸寒天等を取り入れ便秘の予防に努めている。水分補給の少ない方方にはスポーツドリンクやゼリーなど工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は利用者の体調や希望に合わせてそれぞれに沿った支援をしている。夏場は特に足湯やシャワーは随時行う様になっている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活や状況により午睡の時間をとったり、眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法などを理解し表情や活動の抑制、食思の低下、便秘や下痢などがなければ確認しながら支援している。錠剤が服薬出来ない方に関してはDrや調剤薬局の薬剤師に相談しながら支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事など一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、ねぎらいの言葉を伝えるようにしている。又、花を好きな利用者には屋上でプランターで季節の花や簡単な野菜などを楽しんでいただくなど支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見や水族館、動植物園など歩行困難なケースでも車や車椅子を利用し、戸外にでることを積極的に行っている。又、個別に誕生日などの特別な日はそれぞれ希望される所へ一緒に出かけたりご家族と一緒に外食など楽しみにされる事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中にはご自分でお金を所持しておられる方もおり、スタッフと一緒に出かけ好きなものを買いたい物が出来る支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに気軽に電話されたり、取次ぎを支援している。又、手紙や小包の取次ぎも支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の調度品はなるべく馴染みのものを持ち込んで頂くようにしている。共用スペースの飾りつけやソファの位置も家庭的な雰囲気でご過ごしていただけるよう配慮している。又台所からの調理の音や臭いなど生活感、季節感も感じて頂く工夫をしている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにもソファや畳間、個人が座れる椅子があり、仲の良い入居者同士、一人でくつろげる居場所作りの工夫をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や遺影、冷蔵庫など今まで使っていた馴染みのものを置いたり、思い出の写真や作品を置きご本人が居心地良く過ごせる工夫をしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほうきや掃除機、雑巾などは出来る方はすぐ使えるように分かる所に置き、出来る家事などはそれぞれに合った家事で自立した生活を送って頂くように環境整備に努めている		